

ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認のうえ、お近くの営業拠点へお問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておく、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

全国営業拠点

お客様相談センター【ご利用時間 9:00～18:00】※全日対応(土・日・祝日対応)

●フリーダイヤル

 **0120-20-8822** ※携帯電話、IP電話からもご利用いただけます。

●北海道支店	●北陸支店
TEL (011) 786-5122	TEL (076) 263-4311
●東北支店	●関西支店
TEL (022) 288-8676	TEL (06) 7167-3644
●東京支店	●中国支店
TEL (03) 5753-7703	TEL (082) 504-8282
●関東支店	●四国支店
TEL (03) 6374-5687	TEL (087) 863-6761
●中部支店	●九州支店
TEL (052) 533-0231	TEL (092) 621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点をご確認いただけます。

<https://www.hikoki-powertools.jp/relation/sales.html>

WEBに
アクセス

バーコードリーダー機能付きの
携帯端末より読み取ることで、
最新の全国営業拠点をご確認
いただけます。



工機ホールディングス株式会社

〒108-6018 東京都港区港南2丁目15番1号(品川インターシティA棟)

営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <https://www.hikoki-powertools.jp>

部品コード C99105002 308 M

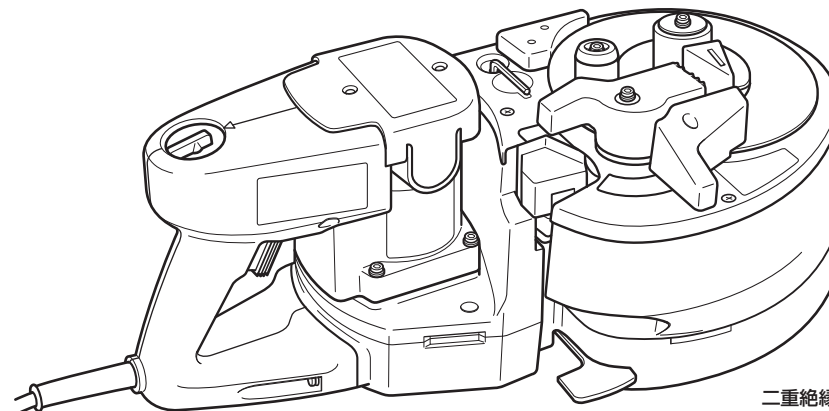
Hikoki

鉄筋カットベンダ

16 mm VB 16Y

取扱説明書

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



二重絶縁



本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

目 次

	ページ
電動工具の安全上のご注意	2
鉄筋カットベンダの使用上のご注意	5
ラベルの説明	6
各部の名称	9
仕様	10
標準付属品	10
別売部品	11
用途	11
作業前の準備	12
ご使用前に	13
切断方法	14
カッタの寿命と交換方法	16
曲げ方法	18
保守・点検	21
ご修理のときは	裏表紙

⚠警告、⚠注意、注 の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠警告」、「⚠注意」、「注」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、「⚠注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

電動工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠警告

- ① **作業場は、いつもきれいに保ってください。**
 - ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② **作業場の周囲状況も考慮してください。**
 - 電動工具は、雨の中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
 - 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- ③ **感電に注意してください。**
 - 電動工具を使用中、身体を、アース（接地）されているものに接触させないようにしてください。
（例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠）
- ④ **子供を近づけないでください。**
 - 作業者以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
 - 作業者以外、作業場へ近づけないでください。
- ⑤ **使用しない場合は、きちんと保管してください。**
 - 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。
- ⑥ **無理して使用しないでください。**
 - 安全に能率よく作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。
- ⑦ **作業に合った電動工具を使用してください。**
 - 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行う作業には使用しないでください。
 - 指定された用途以外に使用しないでください。
- ⑧ **きちんとした服装で作業してください。**
 - だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。
 - 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
 - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。

⚠警告

- ⑨ 保護メガネを使用してください。
 - 作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
- ⑩ 防音保護具を着用してください。
 - 騒音の大きい作業では、耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。
- ⑪ コードを乱暴に扱わないでください。
 - コードを持って電動工具を運んだり、コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
 - コードを熱、油、角のところがった所に近づけないでください。
- ⑫ 加工する物をしっかりと固定してください。
 - 加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。
- ⑬ 無理な姿勢で作業をしないでください。
 - 常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。
- ⑭ 電動工具は、注意深く手入れをしてください。
 - 安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。
 - 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
 - コードは定期的に点検し、損傷している場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
 - 継ぎ（延長）コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換してください。
 - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
- ⑮ 次の場合は、電動工具のスイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。
 - 使用しない、または、修理する場合。
 - 刃物、トイシ、ビットなどの付属品を交換する場合。
 - その他、危険が予想される場合。
- ⑯ 調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。
 - 電源を入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしであることを確認してください。
- ⑰ 不意な始動は避けてください。
 - 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
 - さし込みプラグを電源にさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。
- ⑱ 屋外使用に合った継ぎ（延長）コードを使用してください。
 - 屋外で使用する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルの継ぎ（延長）コードを使用してください。

⚠警告

- ⑲ 油断しないで十分注意して作業を行ってください。
 - 電動工具を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
 - 常識を働かせてください。
 - 疲れているときは、使用しないでください。
- ⑳ 損傷した部品がないか点検してください。
 - 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
 - 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
 - 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
 - スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
 - スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。
- ㉑ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。
 - この取扱説明書および当社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外のものは、事故やけがの原因になる恐れがあるので、使用しないでください。
- ㉒ 電動工具の修理は、専門店で依頼してください。
 - この電動工具は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
 - 修理は、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。事故やけがの原因になりますので、修理の知識や技術のない方は修理しないでください。

回 二重絶縁について

電気が流れる導体部と人の触れる外枠部の間が、二つの絶縁物で二重に絶縁されている電動工具で、この製品には“回”マークを表示しています。二重絶縁工具は、感電に対し安全性が高められています。異なった部品と交換したり、間違って組み立てると、二重絶縁構造ではなくなり、危険です。電気系統の分解・組立や部品の交換・修理は、お買い求めの販売店に依頼してください。

鉄筋カットベンダの使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、鉄筋カットベンダとして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

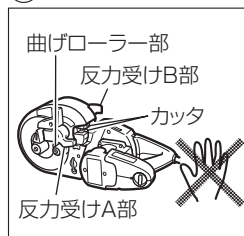
⚠ 警告

- ① 使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。
表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に速くなり、けがの原因になります。
- ② 仕様欄にある機体の最大能力を超えた作業はしないでください。
また、PC 鋼などの硬い材料を切断したり、曲げたりしないでください。
破片が飛ぶことがあり、事故の原因になります。
- ③ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音や異常振動がしたときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店に点検、修理を依頼してください。
そのまま使用していると、けがの原因になります。
- ④ 切断作業時以外は、カッタ部のカバーを必ず閉めてください。
カバーを開けたままにしておきますと、カッタ部に異物をかみ込む恐れがあり、事故の原因になります。
- ⑤ スwitchを操作する際には、カッタ、反力受け部および曲げローラー部には絶対に手を近づけないでください。
けがの原因になります。
- ⑥ 誤って落としたり、ぶつけたときは、カッタや機体などに破損や亀裂、変形の無いことをよく点検してください。
破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。
- ⑦ 機体を連続で使用すると、インナカバー部とギヤカバー部が熱くなる場合があります。連続使用した場合は、インナカバー部とギヤカバー部には手を触れないでください。
- ⑧ 機体を水中に入れたり、水中に入れたまま放置しないでください。
機体の故障や、感電の恐れがあります。

④



⑤



⚠ 注意

- ① カッタや付属品は、取扱説明書にしたがって確実に取付けてください。
確実でないと、はずれたりして、けがの原因になります。
- ② カッタの点検、清掃、交換の際は、さし込みプラグを電源から抜いてください。
誤ってスイッチを入れると、けがの原因になります。

ラベルの説明

機体に貼り付けてあるラベルについて説明します。
よくお読みになり、正しくお使いください。

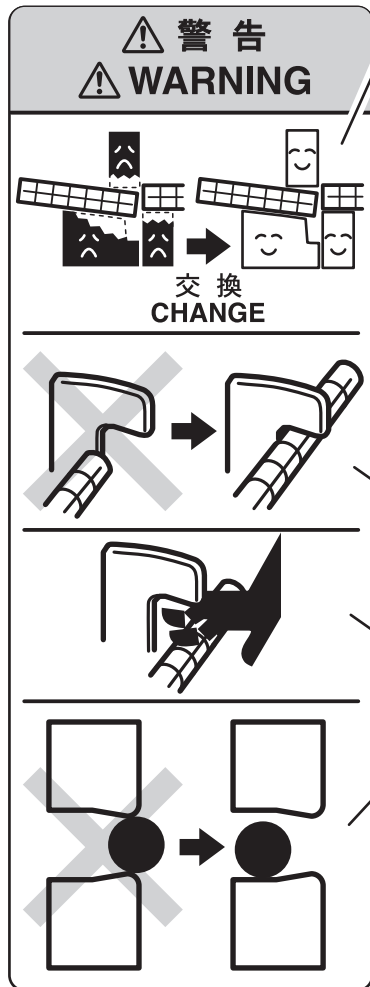
・ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください。

・雨中で使用したり、湿ったまたは、ぬれた場所で使用しないでください。



・曲げ材料の旋回範囲に人がいないことを確認してから、作業してください。

・運転中は、絶対にカッタに手を近づけないでください。



- ・カッタは鉄筋切断の繰り返しにより刃部が摩耗します。カッタが摩耗したまま使用すると破損して破片が飛散する場合があります。切断回数8000回位を目安に新しいカッタと交換してください。

- ・この機体は上側カッタとグリップラバーで鉄筋片を保持する構造になっています。グリップラバーが摩耗すると鉄筋片を保持しにくくなり鉄筋片が飛散するなどの恐れがあります。鉄筋を保持しにくになったら新しいグリップラバーと交換してください。

- ・切断作業時、鉄筋は反力受けB部に確実にかけて作業をしてください。また、反力受けB部にかける鉄筋の長さは十分に確保してください。

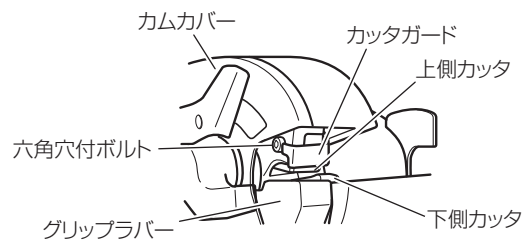
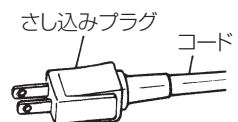
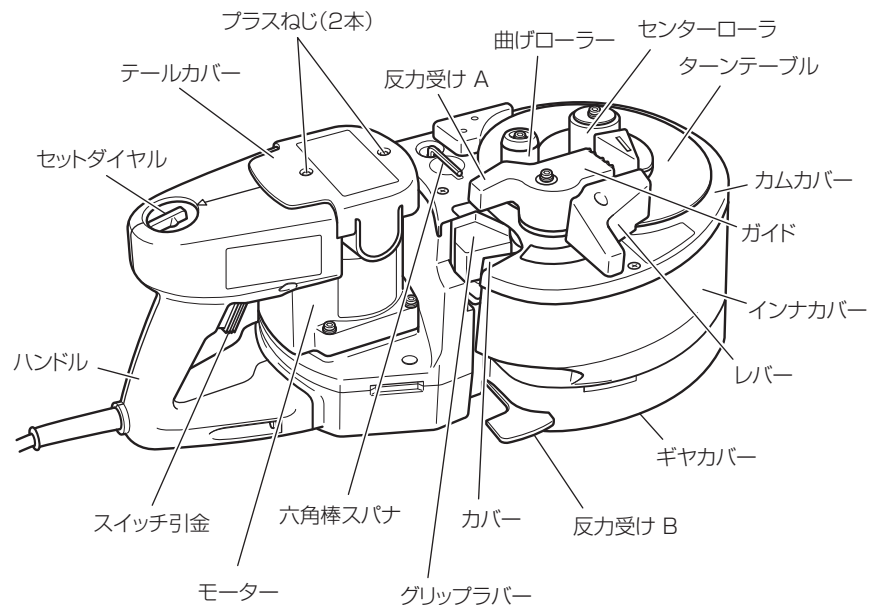
- ・運転中は反力受けB部に手を近づけないでください。指などを挟んだりけがの原因になります。

- ・切断作業時、鉄筋は必ずカッタの中央または奥に正しくセットしてください。カッタの端部にセットしたまま切断作業をすると、鉄筋の飛散や、カッタ、機体の破損の原因になります。



- ・鉄筋に手を添えながら、大きな角度に曲げると鉄筋の折り返しにより手を挟み込む恐れがあります。鉄筋の折り返し位置には、絶対に手を添えないでください。

各部の名称



仕様

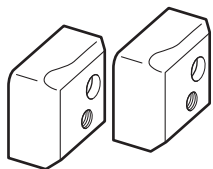
使用電源	単相交流 50 / 60 Hz 共用 電圧 100 V		
能力	(1) 材質 SD 295、SD 345 鉄筋		
	(2) 材料径と加工本数		
	一度に加工 できる本数	切 断 D 10 mm 2 本 D 13 mm 1 本 D 16 mm 1 本	曲 げ D 10 mm 3 本 D 13 mm 2 本 D 16 mm 1 本
モーター	単相直巻整流子モーター		
定格電流	6 A		
消費電力	570 W		
質量	17.0 kg (コードを除く)		
コード	2 心キャブタイヤコード		

標準付属品

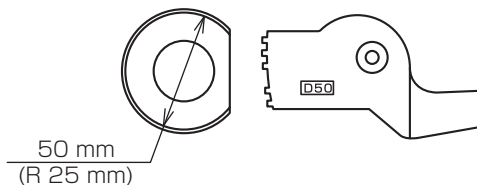
- ① 六角棒スパナ (M 5 六角穴付ボルト用)…………… 1 個 (本体装着)
- ② カッタ…………… 1 セット (本体装着)

別売部品

1. カッタ

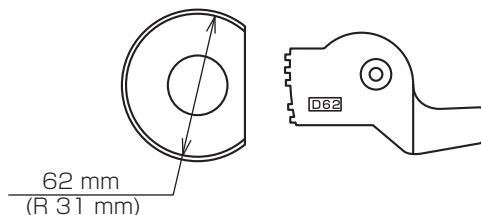


2. センターローラ (D50) セット



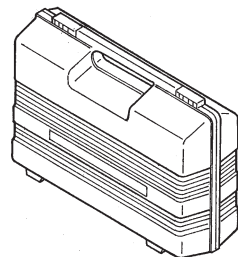
※ 1 セット 2 コ入りです。 ※ 鉄筋の曲げ径を変える時 (曲げ半径: R 25) に使用します。

3. センターローラ (D62) セット



※ 鉄筋の曲げ径を変える時 (曲げ半径: R 31) に使用します。

4. 収納ケース



※ 外形寸法
525 × 346 × 236 (mm)

作業前の準備

作業前に次の準備をすませてください。

1. 漏電しゃ断器の確認

この製品は二重絶縁構造で、法律により漏電しゃ断器の設置は免除されていますが、万一の感電防止のため、漏電しゃ断器が設置されている電源に接続することをおすすめします。

2. 継ぎ (延長) コード



警告

• 継ぎ (延長) コードは、損傷のないものを使用してください。

継ぎコードは、製品を最高の能率で故障なくご使用いただくため、電流を流すのに十分な太さのものをできるだけ短くして使用します。

導体公称断面積	最大長さ
0.75 mm ²	20 m
1.25 mm ²	30 m
1 mm ²	50 m

左の表は、使用できるコードの太さ (導体公称断面積) とその最大長さを示します。

3. 作業環境の整備・確認

作業をする場所が 2 ページの「電動工具の安全上のご注意」①・②・④にかがけられているような適切な状態になっているかどうか確認してください。

○ 騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

用 途

○ コンクリート補強用に使用する鉄筋の切断および曲げ作業

注 • D16 mm より太い鉄筋、能力以上の硬さの鉄筋または鉄筋以外のものを切断したり、曲げたりすると、本体を破損させる場合がありますので、絶対にしないでください。

ご使用前に

⚠ 警告

- ご使用前に次のことを確認してください。1～4項については、さし込みプラグを電源にさし込む前に確認してください。

1. 使用電源を確かめる

必ず銘板に表示してある電源でご使用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターの回転が異常に速くなり、機体が破損する恐れがあります。また、直流電源や、エンジン発電機で使用しないでください。製品の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。

2. スイッチが切れていることを確かめる

スイッチが入っているのを知らずにさし込みプラグを電源にさし込むと不意に機体が起動して、思わぬ事故の原因になります。スイッチはスイッチ引金（9ページの図参照）を引くと入り、はなすと切れます。スイッチの引金を引き、はなしたとき引金に戻ることを必ず確認してください。

3. カッタの取付けボルトを確かめる

カッタを取付けている六角穴付ボルトがしっかりと締付けられていることを、付属の六角棒スパナで確かめてください。ゆるんだ状態で使用すると機体やカッタの破損をまねくだけでなく、事故の原因になります。

4. カッタに異常がないことを確かめる

カッタに異常がないことを確かめてください。
“摩耗”、“変形”、“欠け”の生じたカッタを使いますと、機体やカッタの破損をまねくだけでなく、事故の原因になります。

5. 電源コンセントの点検

さし込みプラグをさし込んだとき、コンセントがガタガタだったり、さし込みプラグがすぐ抜けるようでしたら修理が必要です。お近くの電気工事店などにご相談ください。そのままお使いになりますと過熱して事故の原因になります。

切断方法

⚠ 警告

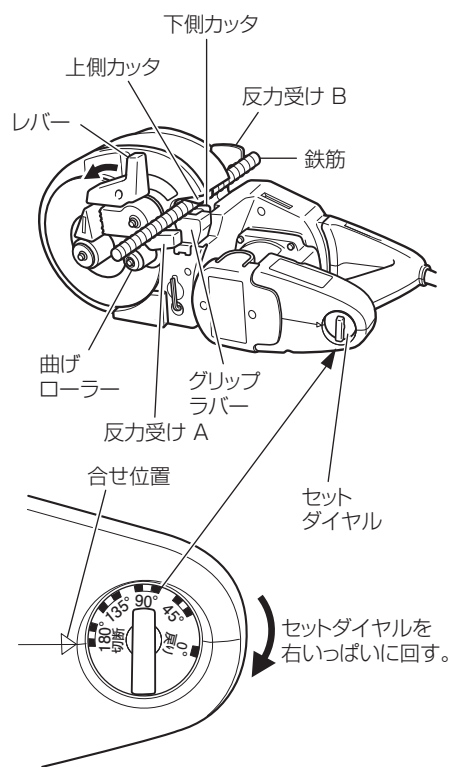
- この機体は、手持ち工具ではありません。必ず床や地面の安定した所へ置いて使用してください。
- 運転中は、絶対にカッタに手を近づけないでください。
- 運転中は、反力受け A、B 部に手を近づけないでください。
- 鉄筋 (SD 295、SD 345) 以外の材質を切断しないでください。材料が折れて飛散するなどの恐れや機体の破損の原因になります。
- 切断作業時でも曲げローラーは動いています。絶対に手を近づけないでください。
- カッタは鉄筋切断の繰り返しにより刃部が摩耗します。
カッタが摩耗したまま使用すると破損して破片が飛散する場合があります。切断回数 8,000 回位を目安に新しいカッタと交換してください。
- この機体は上側カッタとグリップラバーで鉄筋片を保持する構造になっています。
グリップラバーが摩耗すると鉄筋片を保持しにくくなり鉄筋片が飛散するなどの恐れがあります。
鉄筋を保持しにくくなったなら新しいグリップラバーと交換してください。
(グリップラバーの交換はお買い求めの販売店に修理を依頼してください。)
- 切断作業時、鉄筋は反力受け B 部に確実にかけて作業をしてください。
また、反力受け B 部にかかる鉄筋の長さは十分に確保してください。
- 切断作業時、鉄筋は必ずカッタの中央または奥に正しくセットしてください。カッタの端部にセットしたまま切断作業をすると、鉄筋の飛散や、カッタ、機体の破損の原因になります。

⚠ 注意

- D16 mm、D13 mm の 2 本同時切断はしないでください。
機体破損の恐れがあります。

- 注** • この機体には、機構部の保護のためスリップクラッチが内蔵されています。能力以外の径、材質の材料を加工するとスリップクラッチが作動する場合があります。このようなときは、すぐに加工を中止して材料を確認してください。
スリップクラッチの作動時には大きなスリップ音が発生しますが異常ではありません。

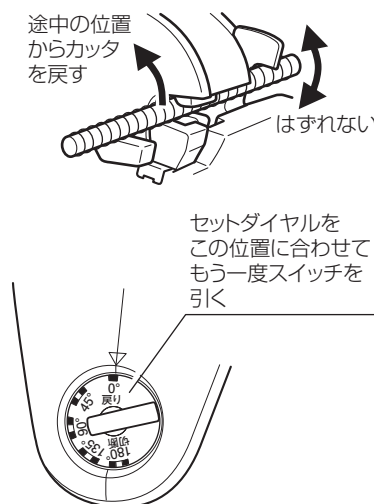
1. 切断方法



- (1) レバーを矢印の方向へ回して、カバーを開けます。
- (2) セットダイヤルを“切断”の位置に合わせます。(セットダイヤルを右いっぱい回す。)
- (3) 機体を左図のような姿勢にします。
- (4) 切断する鉄筋を下側カッタの上にセットします。
- (5) 鉄筋をセットしたとき、反力受け B に鉄筋が引っ掛かることを確認します。
- (6) スイッチ引金を引いて鉄筋を切断します。

注 • 鉄筋の切断を終了しても、モーターが逆回転して上側カッタが戻り始めるまでスイッチ引金を引き続けてください。はなすとカッタは戻りませんので、もう一度スイッチ引金を引いてください。
• スイッチを切った後、すぐにスイッチを入れるとモーターが起動しない場合があります。約 1 秒待ってからスイッチを入れ直してください。

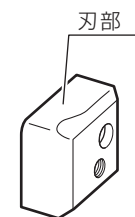
2. 切断途中での鉄筋のはずし方



切断途中にスイッチ引金をはなした場合、カッタが中途半端な位置で静止して、切断途中の鉄筋がカッタ部に挟まり、はずせなくなる場合があります。このようなときは、再度スイッチ引金を引いて鉄筋を切断してしまうか、セットダイヤルを“戻り”の位置に合わせてから、もう一度スイッチ引金を引き、上側カッタを元の位置まで戻して鉄筋をはずしてください。

カッタの寿命と交換方法

1. カッタの寿命

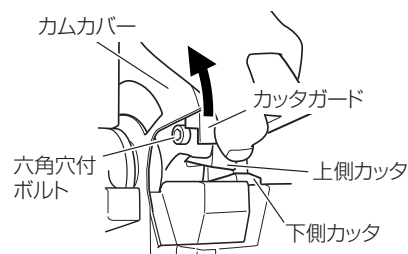


カッタは鉄筋切断の繰り返しにより刃部が“摩耗”、“変形”、“欠け”などが生じてきます。このまま使い続けると機体に損傷を与えるだけでなく、さらにカッタの破片が飛散するなどの恐れがあります。

鉄筋を約 8,000 本位 (目安) 切断しましたら、新しいカッタと交換してください。

2. カッタの交換方法

(1) 取りはずす前に



① スイッチ引金を軽く引き、上側カッタをゆっくり動作させ、上側カッタを固定している六角穴付ボルトがカムカバーの外に出てきたとき、スイッチを切ります。

② 次に、必ずさし込みプラグを電源から抜きます。

(2) 取りはずし

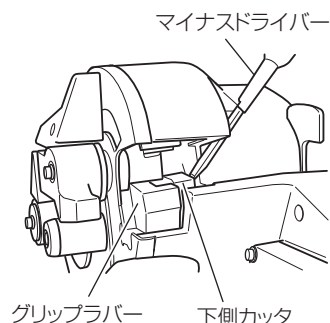


警告

- 万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源から抜いてください。

付属の六角棒スパナで六角穴付ボルトをはずすと、カッタが取りはずせます。上側カッタの取りはずしは、上図のようにカッタガードを矢印の方向へ押し上げると容易にできます。

下側カッタの取りはずしは、下図のようにマイナスドライバーで下側カッタをこじるようにすると容易にできます。



(3) 取付け

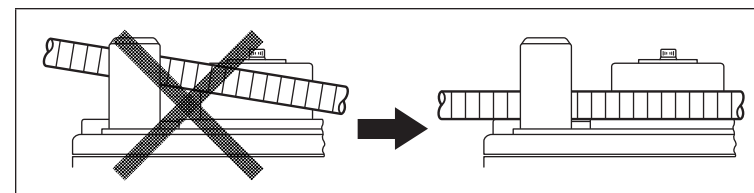
- ① カッタ取付け部のごみを清掃します。
- ② 新しいカッタの穴とピンの位置を合わせて取付け部に入れます。
- ③ 六角穴付ボルトも同時に新しいもの（カッタに同梱されています）に交換して、付属の六角棒スパナで十分に締付け、カッタを固定してください。

曲げ方法



警告

- この機体は、手持ち工具ではありません。必ず床や地面の安定した所へ置いて使用してください。
- 運転中は、絶対に曲げローラー部に手を近づけないでください。
- 鉄筋 (SD 295、SD 345) 以外の材質を曲げないでください。材料が折れて飛散する恐れや機体の破損の原因になります。
- D10 mm 鉄筋は 3 本以下、D13 mm 鉄筋は 2 本以下、D16 mm 鉄筋は 1 本ずつ曲げてください。
- 曲げ作業時でもカッタは動いています。安全のため、カッタ部のカバーは必ず閉めてください。
- 曲げ材料の旋回範囲に人がいないことを確認してから、作業してください。
- 曲げる鉄筋の余り長さは、最低 200 mm 以上確保してください。短いと曲げ加工中に鉄筋がはずれたり、折れて飛散する恐れがあります。（次ページの左中図）
- 鉄筋は、センタープレートの上に置き、ターンテーブルの面とほぼ水平になるようセットしてください。鉄筋を上へ傾けたままセットして曲げると、曲げ途中に、鉄筋が曲げローラからはずれ、飛散する恐れがあります。



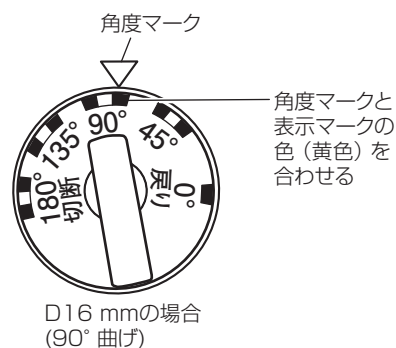
- 一度に複数本曲げる時は、曲げている鉄筋が、曲げローラやガイドなどから外れやすいので注意して水平にセットしてください。
- 鉄筋に手を添えながら、大きな角度に曲げると鉄筋の折り返しにより手を挟み込む恐れがあります。鉄筋の折り返し位置には、手を絶対に添えないでください。

1. セットダイヤルでの曲げ角の設定

ダイヤル表示の角度により下図のような状態に曲げられます。

ダイヤル表示	45°	90°	135°	180°
鉄筋の状態				

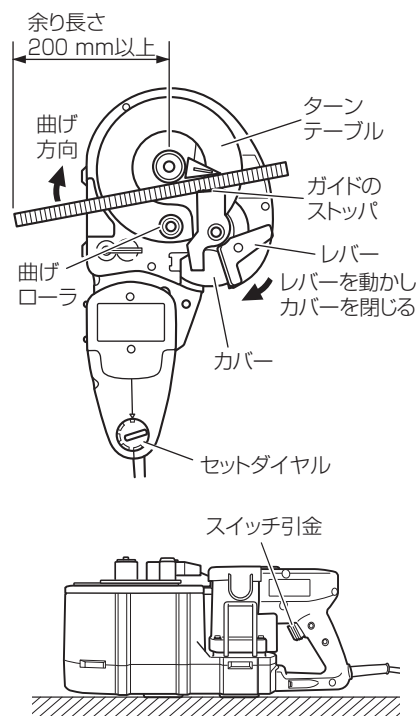
D10 mm、D13 mm、D16 mm 鉄筋の曲げで、鉄筋の太さの違いにより同じダイヤル位置でも、曲げ角度に差が生じます。左上図のように同じ曲げ角度でも鉄筋径によってセットダイヤルの位置を少し変えてください。



鉄筋のサイズ	表示マークの色
D10 mm	白色
D13 mm	赤色
D16 mm	黄色

注 • 鉄筋径や鉄筋のばらつきによっては、同じダイヤルセット位置でも曲げ角度が異なる場合があります。角度マークは、あくまでも目安としてください。詳しくは機体に貼り付けてある説明ラベルを確認してください。

2. 通常の曲げ方法



- (1) 本体を左下図のようにターンテーブルを上にした姿勢にします。
- (2) カバーが閉じられていることを確認します。
- (3) セットダイヤルを希望の角度にセットします。
- (4) 鉄筋を左中図のようにガイドのストッパに当てがい、正しくセットします。
- (5) スイッチ引金を引いて、鉄筋を曲げます。

注 • スイッチを切った後、すぐにスイッチを入れるとモーターが起動しない場合があります。約 1 秒待ってからスイッチを入れ直してください。
 • モーターが逆回転して曲げローラーが戻り始めるまでスイッチ引金を引き続けてください。(戻り始めたら、曲げローラーは、スイッチ引金をはなしても自動で元の位置まで戻ります。)

3. 目測での曲げ方法

この機体は、無段変速スイッチを採用していますので、“ダイヤル設定による曲げ”の他、目測で希望の角度に鉄筋を曲げることができます。

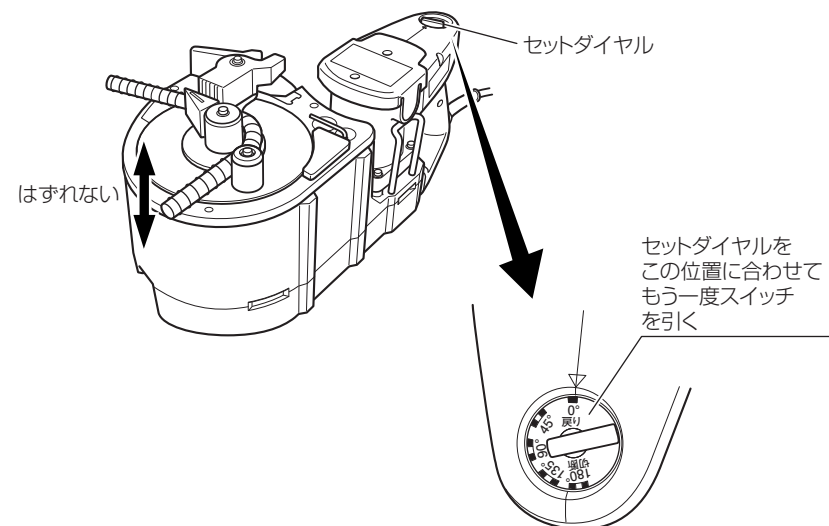
- (1) セットダイヤルを希望の角度より大きめにセットします。
- (2) スイッチ引金を軽く引いて、鉄筋をゆっくり曲げます。
- (3) 鉄筋が希望の角度まで曲がったら、スイッチを引くのをやめます。曲げ不足のときは、もう一度スイッチを引きます。
- (4) 曲げ終わった後は鉄筋を取りはずし、さらにもう一度スイッチを引いて曲げローラーを元の位置まで戻します。(曲げローラーが逆回転を始めるまでスイッチを引き続けます。)

4. 曲げ途中で鉄筋のはずし方

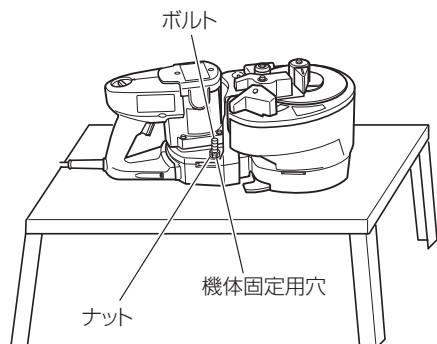
“目測での曲げ”のとき、低速で曲げた場合、鉄筋がそれ自体のたわみにより曲げローラーに挟まってしまい、はずせなくなる場合があります。

そのようなときは、セットダイヤルを“戻り”の位置に合わせて、スイッチをもう一度引くと曲げローラーを元の位置まで戻すことができます。

これは、切断時、カッタ部に挟まった鉄筋をはずすときと同じ方法です。



5. 機体固定用穴の利用法



機体中央には、機体固定用穴が1カ所開いています。

この“機体固定用穴”は、下記の要領で使用しますと大変便利です。

○ 台に固定して使用する場合

適当な台にボルトとナットで固定して使用する場合に便利です。
(ボルトサイズ M10、W3/8 以下)

保守・点検



警告

●点検・手入れの際は、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源から抜いてください。

1. 使用後の手入れ

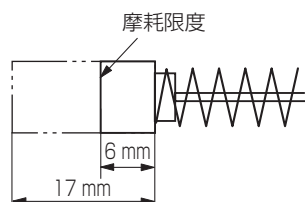
使用後は、特に刃部周辺やターンテーブル上面をブラシなどで掃除してください。

2. 各部取付けねじの点検

各部取付けねじでゆるんでいるところがないかどうか定期的に点検してください。もしゆるんでいるところがありましたら締め直してください。

ゆるんだままお使いになりますと、けがなど事故の原因になります。

3. カーボンブラシの点検



モーター部には、消耗品であるカーボンブラシを使用しています。カーボンブラシの摩耗が大きくなりますと、モーターの故障の原因になりますので、長さが摩耗限度(6 mm)ぐらいになりましたら新品と交換してください。

また、カーボンブラシはごみなどを取除いてきれいにし、ブラシホルダ内で自由にすべるようにしてください。

注 ●新品と交換の際は、必ず弊社指定のカーボンブラシを使用してください。

交換方法

カーボンブラシは、テールカバーのプラスねじ2本をはずし、マイナスドライバーなどでブラシキャップ(9ページの図参照)をはずすと取出せます。

4. モーター部の取扱いについて

モーター部(9ページの図参照)の巻線部分は機体の重要な部分です。巻線にキズ、洗油および水をつけないよう十分注意してください。

注 ●モーター内部にごみやほこりがたまると、故障の原因になります。

50時間ぐらい使用しましたら、モーターを無負荷運転させて、湿気のない空気をハウジングの風穴から吹き込んでください。ごみやほこりの排出に効果があります。

5. 表面のよごれの清掃

機体の外枠は強じんな合成樹脂製ですが、ガソリン、シンナー、石油、灯油類を付着させると表面を傷めます。

清掃の場合は乾いた布か石けん水をつけた布などでふいてください。

水がモーター部に入るとモーターの絶縁を弱めますので、水あらいなどは絶対にしないでください。

6. 機体や付属品の保管

機体や付属品の保管場所として、下記のような場所は避け、安全で乾燥した場所に保管してください。

- お子様の手が届いたり、簡単に持ち出せる場所
- 軒先など雨がかったり、湿気のある場所
- 温度が急変する場所
- 直射日光の当たる場所
- 引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所

このような場所
には保管しない。